

C.L. ドジソン (ルイス・キャロル) の手紙¹⁾

平 倫 子

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1868年1月28日

拝 啓 [訳者注: マクミラン氏宛]

納得のいく収支計算書を作って下さり、感謝しています。あなたのおっしゃる合計640ポンドから、私はオックスフォードでの印刷代100ポンド、さし絵の費用280ポンドを差し引かなければなりませんので、純益は250ポンドになります。目下印刷中の版に間に合うよう訂正文を同封します。あのままでは文章が意味をなしませんので、誤植はこの前の版だけです。

良質の紙が確保できるのでしたら、ぜひともドイツ語版の印刷をして下さい。外国の本があまりに紙が悪いのでぞっとします。本全体の校正刷りを半ダースいただけると有難いのですが。

ところで、あなたにお知らせしたい新しい計画があります。ささやかな詩集を世に出したいのです。詩の大半は雑誌からの再録ですが、最初が一番長い詩は、全く新しいものです。私はコーム氏²⁾に印刷をまかせたのですが、出版して下さいますか？ それをするにあたっての私の考えは、活字と紙もさることながら、行間をひろくあけてほしいのです。最高の詩は別として、それ以外は活字の詰まりすぎた印刷や、安っぽい紙には耐えられないものですから。それから装丁の色は当然『アリス』とよくつり合うものにすべきです。最後に印刷部数は、ごく僅か、例えば250部、にしたいのです。私がせいぜい望むのは、もうかっただけで当然第二版を出していただきたい、というのと同じことです。もしあなたがそれをイースターに出版しようとお考えなら、私はすぐに印刷を進めるつもりです。そうすれば校正や推敲に時間をかけることが出来ます。

PHANTASMAGORIA
and other poems
by Lewis Carroll.

敬 具
C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1868年1月30日

拝 啓

あなたのお手紙から『ファンタズマゴリア』は、『アリス』（訳者注：『鏡の国のアリス』）と同じ時期に出版して下さるおつもりと希望的に判断いたしました。本のつくり等に関して速やかにお教え下さいますようお願いいたします。私は『ゴブリン・マーケット』³⁾があらゆる点でいい手本になると思っています。詩のゲラ刷りは間もなくお手もとにとどくでしょう。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1868年2月7日

拝 啓 マクミラン様

お金のことでおたずねしたいことがもうひとつあります。貴社では著者に支払うべきお金を6ヵ月後に支払う、と私は考えていますが正しいですか？ そうだとしますと、6月に私に支払われるべきもの(276ポンドかと思いますが)はクリスマスごろ手にする筈だったわけですね(ちなみにそれをまだ受取っておりません)——そしてクリスマスに支払われるべき追加分の約250ポンドは、来年の六月を期待してよろしいのですね？ 全体が遅れているということ以外、私は特に急いでいるわけではなく、催促していると思われたくもありませんが、たとえそれが慣習に従った時期なのだとしても、興がそがれるというものです。

私の本の背に関する右図のようなアイディアをどうお思いですか。もしこれがいいとお考えでしたら、デザインその他をうまくやって、金色で印刷していただけますか。 敬 具

C.L. ドジソン



クライスト・チャーチ, オックスフォード

1868年2月16日

拝啓 マクミラン様



お金ありがとうございました——正当な手つづきをふんだものであることを望みます。もし貴殿が、何日でもかまいませんが、午後2時に、クライスト・チャーチにいらしていただく機会があれば、『ファンタズマゴリア』のことを検討することが出来ます。私どもは目下それを活字にしているところですが最終の推敲のために、しばらく私の手もとにおいておくつもりですので。出版はイースターがいいのではないかと思います。もしどなたか幻想的な図柄の上手な画家をご存じでしたら、『王子の巡幸』⁴⁾の表紙と同じようにしてみてもよいかもしれません。最初の詩の主題にあわせて、いくぶん幻想的な雰囲気がいいと思います。

ぜひとも『アリス』をドイツ語で出版していただきたいのです。以前にもこのことは申し上げたと思います。昨日、あなたからのドイツ語による初校ゲラ刷りを受け取りました。余白にたくさん訂正の書きこみがあるものです。これは何のためのものでしょう。印刷屋に送るべきものではありませんか？

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1868年3月8日

拝啓 マクミラン様

ドゥ・モーリエ氏に口絵のことでお手紙しました(詩のコピーも同封して)。全体からみて私は、章のあとさきの絵はないほうがよいのではないかと考えています。この詩集の第二部は厳粛なものになる予定ですので、その部分にも口絵があるほうがよいと思います。しかしあなたが最初の詩をごらんになるまで待つことは出来ます(それから絵が決められるべきだと思いますから)。

『アリス』の第 11 版 1,000 部は、第 10 版 1,000 部の 4 分の 3 が売れるまで、私に送らないでいただきたいのです。そうすれば、それが到着したとき事態が判明しますから。私達の本が 1 万部売れた、と言うことができたらどんなにうれしいでしょう。

ドイツ語版『アリス』は棒組みゲラ刷りでとりかかるべきだということをお伝えしたかどうか忘れてしまいました。きっと変更や削除があるでしょうし、いまページに組むと余計な面倒の原因になるだけでしょうから。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1868 年 5 月 20 日

拝 啓 クレイク⁵⁾様

私は、ノエル・ペイトン⁵⁾卿からと、彼に手紙を書いてくれた友人から、ペイトン卿はさし絵を引き受けられないと聞き、戸まどっております。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1868 年 6 月 2 日

拝 啓 マクミラン⁶⁾様

私の不運な『アリス』第二冊目に関してですが、テニエルもノエル・ペイトンも（さし絵は）絶望的なようです。雑誌 Fun に載った“Bab”という署名入りのさし絵をご覧になったことがありますか？ 画家の名前はギルバート⁶⁾だと教えられました。彼のグロテスクな絵の才能は大したのですが、かれんで優雅な絵が描けるといふ兆候は、何も見あたりません。しかしそういう能力も持っているかどうか確認していただけるとありがたいのですが（何とかして私のことを持ち出そうとして、彼に直接連絡をとったりなさらないで下さい）。彼にもし、かれんで優雅な絵が描けるとしたら、彼はきっと引き受けてくれると思います。彼の絵はとても面白いものです。しかし私は、彼を知っているという人を誰も知らないのです。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1868年6月4日

拝 啓 マクミラン様

最初に、拙著『行列式』についてのエデュケイショナル・タイムズ誌の書評をありがとうございました。あの書評は、ほめすぎよりずっと有益ではありますが、同時に、書評氏は数学者ではないし、あの本をあまり読んでもないのではないかというおぼろげな疑念を避けることが出来ません。彼の言っている殆どの部分は序文からのものです。従って彼は定理について述べているのですが、私や他の誰も決して用いない非論理的な言いまわしをら列することで、私を非難しているのです。

アメリカの問題（訳者注：アメリカに電気版印刷による『アリス』のさし絵を売るということ）に関しては、テニエル氏に手紙で意向をたずねていますので、彼から返事が来次第あなたにお返事いたします。しかし私自身の気持ちは、電気版印刷を拒否したいと思います。が同時に、安くこちらで印刷しそれを送ってはどうかと、まずアプルトン社に聞いてみて、彼らがだめな場合は、現在あなたのところに志願している印刷所に提案してみるのはいかがかと考えます。そうすれば、テニエル氏の名声にふさわしくない出来のものを生産するという心配はありません。そしてもしアプルトン社が、美しく印刷された絵の版をかなり安く売り出すとしたら、単に絵のコピーだけでそれと競うためにお金を支払う出版社などあるかどうか大いに疑問だと思えます。この計画をどうお考えですか？ またどのくらい安くそれらを売ることが出来るとお考えですか？

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1868年6月7日

拝 啓 マクミラン様

つい最近、科学の教師をしているオックスフォードの友人から明白な

事実として聞いたことですが、アメリカで販売するつもり科学関係の本は、アメリカよりも英国のほうが安く印刷できるという理由で、英国で印刷されることが多いそうです。

もしこれが事実なら、私たちの正しいやり方は、アプルトン社に『アリス』の英国版の出版の辞退を提案し、もし彼らが辞退したらどこほかのアメリカの出版社をさがし、そこに私どもでそれを持ちこむことです。私が聞いたことが正しいければ、私たちはアメリカでそれがしの値段で出版し、誰も絵をコピーしてそれらを再版して競争して売ることが出来ないようにしましょう。

これが現在の私の考えですが、このことについてあなたのお考えをもう一度お待ちします。

“バブ”に関しては、彼がさし絵を描いている「妖精物語」を見ました。そして私の期待は打ちくだされました——彼はグロテスクなものしか描けないということは悲しい事実です。

そんなわけで、もしあなたが画家をさがして下さることが出来なければ、あの原稿は、原稿のまま残り残されるしかありません。

ドイツ語版のほうの進み具合はいかがですか？ まったく悠長な印刷屋らしいですね。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1868年6月17日

拝 啓 マクミラン様

ドイツ語版の『アリス』の校正刷り1部（2部と言うべきでした）と原稿を受け取りました（ついでながらこの原稿は、校正刷りとともにツイメルマン嬢のところに送られるべきものです——しかし私が転送いたしました）。私にはこれを進めるにあたってひとつだけ不満——しかし根本的な問題があります。どのページも、一行の長さが短かすぎ、半インチせますぎます。そのためほとんどのさし絵が、均整がとれず全体の効果が台なしです。

ここに本来のサイズの再校刷りを一枚同封します。しかしこれは16ページ目にだけしか役に立ちませんが。ツイメルマン嬢に校正刷りを転

送する前に、全部が本来のサイズでそろうまで待ったほうがいいと思います。

小さめのサイズの本というものは、とても見劣りのするものです。さし絵を正当にあつかわれないやりかたをとるのなら、ドイツ語版などない方がましです。

ついでながらドイツでは、さし絵をきれいに印刷出来るでしょうか？送られてきた校正刷りはぞっとするようなものでした。 敬 具

C.L. ドジソン

クロフト牧師館⁷⁾, ダーリントン

1868年7月1日

拝 啓 マクミラン様

6月が貴社の収支決算の月であると思っている私が正しいならば、来年の1月に私が貴社から受け取ると期待してよい金額（正確ではなくても大体のところ）を、——そして今年じゅうにさらに『アリス』を増刷するおつもりかどうかとも、どうぞお知らせ下さい。

前に提案したアメリカでの刊行についても、なお情報を待っております。 敬 具

C.L. ドジソン

クロフト牧師館, ダーリントン

1868年7月3日

拝 啓 マクミラン様

ケンブリッジの人物についてのお申し出ありがとうございます。が、幸いなことに私はテニエル氏にさし絵（訳者注：二冊目の『アリス』）を描いてもらうよう話をつけました——彼が合間を見て、出来るときにとりかかって下さるそうです。私たちは多分、来年のクリスマスには間に合うかもしれません。

ドイツ語版『アリス』に関してですが、それぞれのページを、英語版と一致させることで彼らを悩ます必要はない、ということをお伝えするのを忘れていました。さし絵の配置を、彼らが参照するテキストに出来るだけ近いものにする限り、彼らがいいと思う方法でやってもらいま

しょう。

敬 具
C.L. ドジソン

クロフト牧師館, ダーリントン
1868年8月27日

拝 啓 クレイク様

フランス語版『アリス』は待たなければなりません。たとえ印刷されたとしても活字がバラバラでは困ります。活字を組んだままにしておくには、年単位で費用がかかるのが慣例ならば、私はもちろんそれを支払います。詩集はクリスマスの頃の出版には間に合いそうですが、それ以前は無理だと思います。今はまだ広告を出すのは早すぎるとは思いますが、いつごろ始めますか。タイトルはこうです

ルイス・キャロル著『ファンタズマゴリアその他』

広告には『アリス』への言及はむしろないほうが良いと思います。

タイムズ紙にのった書評のことを知らせて下さったことにお礼を言うのを忘れていました。もしあなたご自身で余分なタイムズをお持ちでしたら、いただけるとありがたいと思います。お持ちでないなら私のためにお求めになる必要はありません。オックスフォードで手に入れることが出来ますので。

敬 具
C.L. ドジソン

ホワイト・ハート, ギルフォード⁸⁾
1868年9月14日

拝 啓 マクミラン様

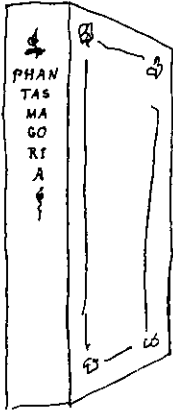
オックスフォードで印刷した『アリス』のタイトル・ページについて、大きな問題があったことを思い出しました。あなたの最初の計画が成功したにもかかわらず、それは全く満足できるものではありません。ルイス・キャロル著『ファンタズマゴリアその他』のタイトル・ページについてのあなたの構想をお知らせいただきたいと思います。ページの大きさは4½×3(インチ)です。

敬 具
C.L. ドジソン

ホワイト・ハート, ギルフォード

1868年9月22日

拝啓 マクミラン様



「G・ドゥ・モーリエによる口絵つき」という文言を宣伝にお入れにならないようにして下さい。彼から、さし絵が描けないと言ってきたところですので。私は誰にたのめばいいかわからず途方に就いています。どなたか心あたりはありませんか？

その本の背の部分について、同封した私の案をどうお考えですか？『水の子』ありがとうございました。『水の子』の画家ノエル・ペイトンが、私のために幻想画を描いてくれたらどんなにいいでしょう。彼だったら最高です！

敬具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1868年10月17日

拝啓 マクミラン様

プロクター氏9)に関する情報ありがとうございます。私は彼に手紙を書いたところです。

詩集の見本についてですが、背に題名を入れるのは絵画的でしかも空想的で大へんいいと思います——しかし現在の見本で私が好きなのは、そこだけです。



(1) 背に円い装飾を用いるのは固い感じがします。上のタイトルと調和するように軽い感じのものにすべきです。



(2) 表紙の飾りは小さすぎます。もっと幅ひろく、もっと幻想的にすべきです。輝く星ではいかがでしょう？



(3) 表紙のまわりは金の線(少なくとも2本の)で囲むべきです。そして小さな飾りを隔々に配置するといわれています。もし2本の線がよじれるのなら、左に私が書いたようにすれば、平凡な直角よりもよくなるでしょう。

(4) 表紙はどちらも全く同じように装飾をほどこすべきで

す。片側だけしか見るに適さない本は我慢できません。しかし装飾は厳密に同じである必要はありません。

(5) 装丁のクロスは、(見本のような) 赤と黒のまざった色ではなく、もっと明るい赤にすべきです。赤とまざった黒の、より糸の影響が強すぎます。

(6) 表紙の板紙は本のふちからもう少し突き出るぐらいがいいのです。このままでは全体的にみて平凡すぎて、まるで廉価版のようです。私の持論では、詩というものは文学の中でも贅沢な形式なのでですから、出来るだけ贅沢な付属品があつてしかるべきです。

個人的に配布するために製本していただく 50 部は、いろいろちがった種類の装丁を試みるいい機会になるでしょう。そのあとで出版に最もふさわしいものを選ぶことが出来ますから。

表紙に題名や絵 (どんなに器用で小さいものでも) などをくり返すのを私は好みません。

製本したものをみても、紙につやがありませんね。『アリス』にはありましたが。これは紙質の違いなのでしょうか? それともオックスフォードで使用している紙と同じようなつやをつけ加える方法がなにかありませんか? 私たちは同じ手ざわりでもう少し厚手の紙を使っていると思います。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1868 年 10 月 22 日

拜 啓 マクミラン様

私たちは、詩集をだんぜん厚手の、より良い色あいの、やや大きめの紙に印刷しています。そのためにずいぶん立派な余白も出来ました。製本するにあたっては、必要以上に小さく切りつめたりしないよう、また板紙の突き出しもページのへりから充分はみ出るぐらいになるよう、どうぞご注意願います。

私はドイツ語版『アリス』をツィメルマン嬢に送りました。彼女には、あなたのところにそれを転送するようお願いし、他の校正刷りも見なければ、あなたにそうお知らせするようにとっておきました。私はト

カゲの名前を“ビル”から何かドイツ語の名前に変えたいと思いますが、それ以外は変えなくてもよいと思います。それはこの本の中に20回か30回出てきますが、別な校正を送らなくても、印刷屋が訂正に留意してくれることを信頼してよいと思います。もしツイメルマン嬢の納得が得られたら、印刷開始の指図をして下さいますか。私は500部が無難ではないかと考えますが、もしあなたが断然1,000部をとおっしゃるなら、反対はいたしません。絵が正当な扱いをうけること、また紙が本当に良質のものであることを保証してくれるようあなたを信頼しておまかせします。外国の本は吸取紙に印刷しているのではないかとつねに思っています。——恐らく紙を送ったほうがいいかもしれませんね。

何にしても製本は英国でするのがよいでしょう。私が今までに見た外国の本のすべてが、すぐにバラバラになりましたから。 謹白

C.L. ドジソン

もちろん彼らに活字を解体しないよう伝えておいて下さい。

クライスト・チャーチ、オックスフォード

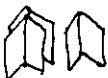

1868年10月22日

急 呈 マクミラン様

ドイツ語版『アリス』をさらに点検しておりましたところ、訂正すべき重大な配列の誤りを見つけました。

(1) ページの上の部分の余白がせますぎます。もし裁断されていないままの一枚刷りのものを広げると、左右2ページの上に印刷されたタイトルが向きあって、その間かくは1インチしかないのがおわかりでしょう。もう1インチ半は必要です。そうすれば、裁断したあとでも余白として $\frac{3}{4}$ インチ残ることになりますから。

(2) 同じことがのどあき(両ページ間の余白)についてもあてはまります。ここの間かくは正確に1インチ半必要です(現在は1インチしかありません)。

(3) “目次”をふくむ6枚は、それぞれ内側に折り込まれるべきものです、つまり  ではなく  のようにです。

(4) 本の最後をシングル・リーフ(2ページ分ではないその半分)で

終わらせるのは、製本のさいに厄介なことですか？ もしダブル・リーブズでなければならぬとすれば、その本は白紙が最後のページにくるわけですね？

(5) 一ヵ所誤植を見つけました。57 ページの 3 行目、(Dir./) のあとに (〃) がつくべきです。

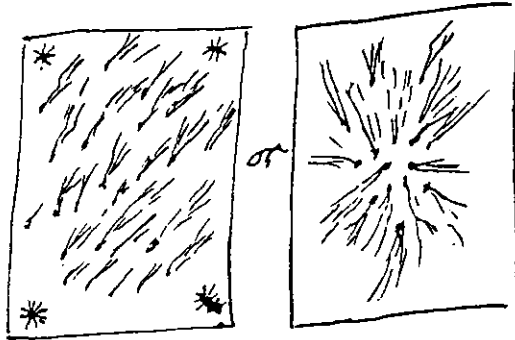
(6) 75 ページの 6 行目の終わりに (〃) を挿入して下さい。

草 々

C.L. ドジソン

追伸 詩集の表紙(と裏表紙)に流星雨をあしらうのはいかがでしょう？ 中心に向かって光り輝いているのがいいと思います。

『アリス』の絵の中で、彼女が部屋いっぱいに描かれているところ(ドイツ語版 42 ページ)に、電気刷印刷がいまだに彼女の鼻のわきに黒い点をつけているということを見つけました。やすりで



これを取ることは出来ませんか？ 同じ欠陥はクレイ氏によってなされた電気刷印刷にもあります。

167 ページの最後の行の始めの部分に (〃) が省かれています。まだまだ多くのこういった脱落があるに違いないのが心配です。彼らは印刷をはじめる前に、句読点の点検のためにもう一度本全体を見直したほうがいいと思います。

C.L. ドジソン (ルイス・キャロル) の手紙

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1868年12月3日

拝啓 マクミラン様

申し訳ありませんが、同封したものを、プロクター氏に転送して下さいませんか？ 私は彼の今の住所を知りませんので。新しい『アリス』が無事着きました。もしあなたがこれから先も永久に電気印刷でやりつづけるのであれば、普通の紙に印刷した印刷紙のままの校正刷りを私に送って下さい。そうすれば、次の版のために私が訂正しますから。句読点はまだまだ改善の可能性があります。

詩集について書かれた新聞のことはまだ何も聞いておりません。私たちはそれを新年の本と言わなければなりません。クリスマスのためにはもう遅すぎると思います。

ところで、なぜクレイは『アリス』の45ページの絵についての申し出に注意を払ってくれないのでしょうか。あなたが送って下さったコピーに、なお鼻のところに目ざわりな黒点がついているのです。電気版印刷の映像に原因があるのですから、とりのぞくべきです。 敬具

C.L. ドジソン

追伸 電報どうもありがとうございました。

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1868年12月9日

拝啓 マクミラン様

多分、今月の末より前には、『アリス』の新しい本(訳者注:『鏡の国のアリス』)の棒組みゲラ刷りのためのかなりの原稿が用意出来ると思います。——きっとクレイはいま手いっぱいでしょうから、それに着手出来るようになるまでは送っても無駄だと思います。が、10日かそこの日にちがたてば彼がそれを始められるかどうか、また私が原稿をあなたに送るか、それとも直接彼に送るか、をどうぞお知らせ願います。出来れば、テニエル氏に今年の終わりまでに棒組みゲラの一部が届くようにしたいのです。有難いことに彼は、出来るだけ合間をみてその仕事をしてくれると約束してくれましたから。

詩集に関してですが、“個人的に配布するためのもの”の背に、ある特

別なマークをつけたいと思います。そしてほかのものと区別出来るようにしておきたいのです。その判断はあなたにゆだねます。ところであなたのモノグラム（頭文字を組み合わせた図案文字）は、とてもいいものなので、私的な本にだけでなく公けにすべきだと思います。

私は、“個人用”を 50 部ではなく、100 部にしてもらいたいと考えています。しかし 500 部は、オックスフォードに関する詩を削除したものにしておきたいのです。でももちろん当分の間は活字に組んだままにしておいたほうがいいでしょう。そうすれば増刷すべきときがきたら（その期待が全くないとは言えません）それに応じることが出来ます。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1868 年 12 月 12 日

拝 啓 マクミラン様

『詩集』のすべてに、オックスフォードに関する詩を入れるのがよい、とは思いません。——それはあまりにもローカルではかない運命をもった詩なのですから。オックスフォードの読者が読みたいと思う部数には、それらの詩を逃すわけにはいきません。と同様、それらを彼らに売ることも出来ません——何も知らないオックスフォードの友人が、もし刊行されたほうの本を買って、あとになって別のものがあつたと聞かされたら、きっとがっかりするでしょう。一番いい方法は、次のような広告をつけ加えることだと思います。

「この詩集のなかには、オックスフォード大学の評議員会の遇会の主題を扱った詩が含まれているものがあります。それらは一般大衆には興味を持たないばかりかあまりに哲学的なものでありますので出版社との申し合わせにより、それらを一部 5 シリング 6 ペンスといたします。」

こうすれば、私たちが印刷したよりも多くの部数を供給することも可能になると思います。しかもページを組み変えたり、(オックスフォード関連の詩を) 削除したりするのはとても簡単に出来るでしょうから。

私は、あなたが(『アリス』のためになさったように)何かフライ・リー


フ (広告用白紙) を印刷し、そこに本のタイトル・ページも入れ、反対側にさきのような追加文も入れて、それを一枚ずつ、売られている本の全てに差し込むのがよいと考えます。

それを『アリス』のすべての本に差し込むこと、あるいは逆に、『ファンタズマゴリア』に『アリス』のフライ・リーフを差し込むのはいかがでしょうか。

私が「本に差し込む」という場合、それを本にとじ込むことではありません。本に広告がとじ込まれているのを私は好みません。

私は『アリス』のフライ・リーフをかなりたくさん持っておりますが、もしそれが何かのお役に立つならばお送りしましょう。 敬 具

C.L. ドジソン

追伸 もしあなたが、あなたの組み合わせ¹⁰文字¹¹を公けの本につけるのはよくないとお考えならば、単純に  印をオックスフォード (詩を含む) 版につけて他と区別する、というのはどうですか？

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1869年1月21日

拝 啓 マクミラン様

『ファンタズマゴリア』が6シリングと広告されているのを見て残念に思いました。5シリングにすると決めたと思っていましたから。私はせいぜい5シリングが適正な値段だと思います。しかし今はもう多くの本があなたの手もとを離れているでしょうから、もうそれを変えるには遅すぎると思います。私は、ドイツ語版『アリス』は、まだ売り出すには間があると思いますので、私が思っているより高くなりすぎないように念のために申し添えているのです。どうか英国では6シリング以上にならないように、そしてドイツでは2ターラにして下さい。それでも高すぎるかもしれません。

これを書いているところに、貴社の社員から、『ファンタズマゴリア』を社から発送したが、¹⁰“J. ペリー”と¹¹“J. リドン”は当該住所にはいない、と知らせてきました。恐らく『紳士録』を見れば、彼らの新しい住所がわかるでしょう、がもしのついでになかったら、ペリー氏の住所は‘イラストレーション画廊’で調べるように、またリドン氏のは、彼の事務所

である‘ホワイト・ホール十番地’に行けば彼に会えるでしょうから、それぞれ使いの者をさし向けて下さい。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1869年1月24日

拝 啓 マクミラン様

『ファンタズマゴリア』の宣伝を、いかなる方法でも、どうぞお願いします。私の唯一の不満は、タイトル・ページに『アリス』のことを書き込んであることです。

新しい本(二冊目の『アリス』)の中で、2ページ分を逆に印刷していただきたいということは前にもお伝えしていると思います——それを読むには鏡に向かって持ち上げていなければならないようにです。絵のように全体を木に彫るのはお金のかかるやり方でしょうね。提案されているそのためのいくつかの方法があります。——第一に、これは私の案ですが、普通の活字で酸に強いインクを使って銅板に印刷し、それから酸をかけてエッチングのように表面を腐蝕させるやり方。——第二に、ある友人が教えてくれたのですが、“重クロム酸塩ゼラチンとにかわゼラチンを使う方法”です。ゼラチンの上にゼラチンを固める効果をもつ何かで印刷し、そのあとで間のゼラチンを解かし去る方法です。

これは、石灰岩を使った“アナスタティック印刷”¹²⁾の工法にとてもよく似ているので、最初にこれを試してみるのがよいと思いますが、この実験を彼らに働きかけて下さいませんか。もしこの仕事が彼等にとってあまりに細かすぎるとしたら、2ページを普通の活字で組んで、石灰岩の平板に印刷し、そこから絵と同じようなやりかたで本の中に使ってもよいかもしれません。もし彼らがこの仕事を引き受けてくれるなら、私は文章ひとつか、または言葉をひとつかふたつでも実際にやるところを見てみたいと思います。——それから電気版印刷の結果をみたうえで、効果を判断すればよいでしょう。活字は、当然『アリス』の中で、詩の部分に使用したものと同じものでお願いします。

あなたが送って下さった『ファンタズマゴリア』の広告用のフライ・リーフを『アリス』の本に差し込むという計画に着手して下さいるようの

ぞんでいます。その逆は必要ありません。

敬 具

C.L. ドジソン

『ファンタズマゴリア』の価格については、多分あなたの判断の方が正しいでしょう。私は、ドイツ語版『アリス』が2タラーなのは高すぎると言われましたが、ドイツで(『アリス』を)もっと安くするための都合はつきますか？

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1869年1月31日

拜 啓 マクミラン様

読者にとって、2ページも逆印刷されたものを読むのはあまりに煩わしいことなので、逆印刷は詩の1節か2節にとどめ(多分その詩の反対側のページいっぱいにはし絵が入ります)、残りの部分は、普通の印刷にしたほうが良いと、自分ではほほ心に決めています。もしあなたがこのことで私と同じお考えでしたら、木版に印刷して、絵のように彫り、電気版印刷をするのが一番良い(しかも他の印刷のしかたと殆ど費用は同じである)とおわかりになるだろうと思います。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1869年2月15日

拜 啓 マクミラン様

以前にも申し上げたことですが、イースターの季節が近づいてきましたので、『アリス』の“廉価版”の出版についてお考えいただけないか、ふたたびおうかがいします。私がそれを考える理由は、営利本位からではありません。—— 厳密に言えば投機なのですが、もうかるよりは損をするかもしれないのです——が、そのことは気にしていません。私の印象としては、現在の値段は、中産階級の多くの子どもたちの手からその本を遠ざけていると思います。そういう子どもたちがこの本を楽しめるようにしたいのです(それより下の階級はそれを楽しみはしないと思います)。次に、その問題で私が心から望むこと(それは、私にとって真の喜びの源でもあるのですが)は、その本が子どもたちによって楽しまれ

るべきである、ということです——ですから部数は多いほど良いのです。そこでもしあなたが考える大体的見積りをたてて下さるとありがたいと思います。例えば、*安い紙に印刷する（しかし、白い紙が断然安いのでなければ、紙の色あいはそのまま） * 1 ページに入れる分量をもっと多くする * 絵はいいものを 10 枚か 12 枚に限定し、別々に印刷する（このやり方は、本文と一緒に印刷するよりも安くなるはずです。そうすれば、とにかく薄い色あいの紙に印刷が出来ると思います） * 本の小口は金ではなく、赤いパラ掛け（霧ぞめ模様）にする * 表紙はあつさりした赤にし、タイトル以外は金を使わない * 本は（例えば）半クラウン（2.5 シリング）で売るとしても、需要が多ければ利益につながります。私は損をして売りたいと思うほどドンキホーテ的ではありません。そうではなくて新しい層の読者にも手の届く（値段の）ものになるのなら、他の本の売れゆきがすこし位悪くなくても別に気にはなりません。もしこの計画が実行可能なのだとすれば、私はイースター・ブックとして、それをやってみたいと思います——それを広告すれば何か言われるかもしれないとお考えなら、その期間はディーラー版は売らないことにした、とすることで人々を安心させることが出来ます。

ドイツ語版『アリス』はまだ到着しませんか？ 出来るだけ早く私あてに 10 部送って下さるようお願いします。それから 50 部以上をあなたが郵便で取り寄せて下さること、そしてその広告を出していただくことをお願いします。私は英国でも売れると思っています。 敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1869 年 2 月 17 日

拝 啓 マクミラン様

「電気版印刷にするとまったく儲けがない、云々」とのこと、ひどく心配になってきました。

本文その他、どのページもすべて電気版印刷にした、ということではないでしょうね。もしそうなら、差し替えのページがかなりたくさんあると思っています。いまの誤植がいつまでもそのままになってしまうのにはどうにも我慢ができません。

そのための私の安全策は、小さな活字をつかい、せまい行間にして紙を半分ぐらいに減らすことで大部すくわれるはずだと思います。あなたのご提案は、量ではなくて質を下げることにように思えます。私は見た目にもっとよい本が出来上るかもしれない別な方法を考えたいと思います——紙の質が悪いと本の外観がひどく損なわれてしまいます。しかし、挿絵を全部入れるという案には、なお議論が必要です。ところで私の案は、本文とは別に印刷した12枚の絵を入れて、例えば、100ページの本にしたとすれば、なんとか2シリングで売出せるでしょう。この値段のほうが貧しい読者にとっては2シリング6ペンスよりも好都合だろうと思います。本文は安い紙に印刷し、挿絵には良質でうすい色あいの紙を使えば、12枚の絵が、安い紙に印刷した42枚の絵よりもずっと値打ちがあると思うのです。以上の点について、ぜひご意見をお聞かせいただきたいと思います。廉価版で利益を上げることはあまり重視なさいませんように。それ相応の儲けがあればそれ以上のことは私はこのぞみません。

どうぞ英語版の『アリス』の訂正用の平板を送って下さい。あなたは普通紙でそれをする約束なさいましたが、あえて申しますが、犠牲にするための目的で一冊の本と同じくらいの経費がかかります。製本したものを犠牲にするにはしのびません。

私は廉価版アリスの紙の表紙と白い小口に大変満足しています。

敬 具

C.L. ドジソン

追伸 アメリカ版のことですが、あちらで『アリス』を出版するために、版權を確保する目的で、だれかアメリカ在住の人と協定を結ぶことが出来ませんか？ その人に利益を配分するのは言うまでもありません。その種のことをこれまで耳にしたことがあると思います。

[注]

- 1) これは、北星論集(文)第30号(1993)につづくもので、L. キャロルが著作出版のため、マクミラン社の社主 Alexander Macmillan にあてた手紙の翻訳である。(© *The Trustees of the Estate of C.L. Dodgson*)なお、翻訳にあたっては、C.L. ドジソンの遺産管理者である

- Philip Dodgson Jaques 氏の許可を得た。
- 2) Thomas Cambe は、オックスフォードのクラレンドン・プレスの支配人で、ドジソンをマクミラン氏に会わせた人。
 - 3) *Goblin Market and Other Poems* は、Christina Rossetti の詩集で 1862 年、マクミラン社から出版された。
 - 4) *The Pince's Progress and Other Poems* も C. Rossetti の作で 1866 年出版された。
 - 5) マクミラン社の George Lillie Craik 氏。
 - 6) Sir William Schwenck Gilbert (1836-1911), Gilbert and Sullivan Operas で名声を博した台本作家でありイラストレーターでもある。
 - 7) ヨーク州クロフト。聖職者であった父親の任地。
 - 8) 父親の死(同年6月)でクロフト牧師館を立ち退かねばならなくなり、ドジソンはサリー州ギルフォードで家をさがしていた。
 - 9) John Proctor, 特徴のある画風で知られるヴィクトリア期の風刺画家。
 - 10) John Orlando Parry (1810-79)は、ドジソンと面識のあった役者、歌手、作曲家。
 - 11) John Liddon は、かつての同僚でモスクワ旅行に同行した Henry Parry Liddon の弟。
 - 12) 石版や亜鉛版を転写板とした印刷法。

TRANSLATIONS

Contemporary Jewish Poets

—Ada Aharoni, Eva Shaltiel,
Luiza Carol, Bella Vernikova—

Yorifumi YAGUCHI

The Letters of C. L. Dodgson to the House of Macmillan

Kumiko TAIRA